

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成29年7月)

### ～気温要因で季節商材は好調の反面、今後は厳しい残暑への不安も～

- 景気ウォッチャー調査・7月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が3か月連続で上昇した一方、先行き判断は4か月ぶりの低下となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、消費者の節約志向は依然として続いているほか、百貨店のクリアランスセール開始が6月末に前倒しとなり、7月の売上にマイナスとなった部分はあったものの、インバウンドによる消費が堅調に推移したほか、梅雨明け以降は気温が高めに推移したことなどから、季節商材の販売の増加などにつながっている。
- 一方、先行きについては、インバウンド関連が引き続き前年を上回ると予想されているほか、今夏の猛暑の予想を受けて、季節商品の販売増加への期待が高まっている。ただし、暑くなり過ぎれば客足が減少するほか、厳しい残暑による秋物商戦への悪影響も懸念されるなど、先行きへの不安の声も少なくない。
- プレミアムフライデーについては、前月は、百貨店が今夏のクリアランスの開始日(6/30)に設定するなどの動きがあったものの、今月は現状判断、先行き判断ともに、言及がゼロであった。

#### 「猛暑・季節商材」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	よく なっ てい る	家電量販店(人事担当)	・気温の上昇に伴い、エアコンを中心とした季節商材の販売が伸びている。また、価格だけでなく、高付加価値商品の販売に注力することで利益も確保されている。
	やや 良くな って い る	百貨店(売場主任)	・今月の売上は目標、前年の水準共に上回る見込みである。ただし、インバウンドの動きやバーゲン商品は好調であるものの、売れるアイテムは限定的である。客は不要不急の商品の購入には消極的であるが、季節商材などの実需商品や、値段が高くても客にとって価値のある商品は、購入する傾向が強い。
		百貨店(役員)	・業界では衣料品が苦戦しているが、クリアランスで消費者にとって適切な価格になったため、店頭販売では衣料品が少し伸びている。それと同様に、お中元商戦で暑い日が続くなか、来客数も増加している。ただし、全体的に食品、化粧品などの日用品は好調であるが、購買単価が下がってきているため、売上は伸びていない。
		百貨店(商品担当)	・特選雑貨や化粧品、子供服を中心に、訪日外国人の免税売上が依然として好調に推移している。衣料品の夏物セールもまずまずの動きである。
		百貨店(服飾品担当)	・7月に入り、気温の上昇と梅雨が重なるとい、例年に近い環境となっている。初旬はクリアランスの開始時期が各店舗で異なったため、客が店を選ぶ動きに多少なりとも影響が出た。6月にセールを開始した店舗は、7月に入って苦戦したものの、都心店舗は高額品のクリアランスを早めた影響もあり、好調に推移している。また、衣料関連は店舗によるばらつきはあるものの、サンダルやパラソルなどの夏物商材は好調で、いずれも前年の売上を数%上回っている。さらに、春から好調の化粧品関連も、好調を維持している。スキンケアを中心に、新しく開発された商材が国内ブランドと一部の海外ブランドで好評であり、売上をけん引している。
		スーパー(店員)	・スイカや桃などの果物がよく売れており、夏野菜もよく売れている。
		コンビニ(広告担当)	・政治の様々な問題や、局地的な豪雨などの異常気象はあるが、比較的好天が続いているほか、猛暑のため、夏場に強い飲料や手軽に買えるファストフード関連、食品関連の動きが増えている。
		コンビニ(店員)	・気温の上昇に伴い、飲料水やアイスクリームなどの売行きが好調である。
		家電量販店(店員)	・エアコン需要のピークで、売上と販売台数は増えたが、単価が落ちているため、やや良くなっている程度である。
		家電量販店(店員)	・今月は梅雨明けのほか、エアコン需要などの繁忙期で売上はまずまずであった。ただし、猛暑の予測の割に、月後半は失速したため、やや期待外れとなっている。

家計動向関連	やや良くなる	家電量販店（企画担当）	・3連休の厳しい猛暑の影響で、来客数が急増し、エアコンの販売が盛り返した。しばらくは継続的な需要が見込めそうである。
		一般レストラン（経理担当）	・回復ペースはやや緩やかになりつつも、堅調に推移していたが、九州北部豪雨や猛暑により、消費の動向に陰りがみられる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊の稼働率は95%を超えており、販売価格を上げると集客は減る状態にあるが、前年比では微増である。宿泊料金の上昇で、国内客が減少する一方、朝食需要の高いインバウンドが増えているため、レストラン収入が大きく伸びている。また、酷暑の影響もあり、喫茶利用が大きく伸びている。
	変わらない	一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・夏物商材の売上が順調に伸びているので、好調である。
		スーパー（経理担当）	・猛暑が続いているが、売上の大きな変動はない。生鮮品に限ると、野菜の相場安や、アニサキスに起因する魚の売上低迷などの影響が出ている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・今年の梅雨は雨が少なく、蒸し暑い日や気温の高い日が多かったため、ドリンク類や日焼け止めのUVクリーム、基礎化粧品が好調である。
		タクシー運転手	・気温の上昇に伴って客の乗車機会は増えているが、あくまで天候要因によるもので、一時的な動きである。
	なっている	一般小売店〔時計〕（経営者）	・日中の暑さが半端ではなく、人の出入りが非常に少なかった。時計は急いで買う物ではないが、需要自体が減少していることを感じる。今月は来客数、売上共に少ない。
		スーパー（店長）	・猛暑で日用品は動くが、消費に力強さが感じられない。衝動的な支出はせず、モノ消費を抑えて、コト消費を増やす傾向が強い。
	悪くなる	一般レストラン（経営者）	・暑さの影響で、近隣の商店街には人が歩いていないため、来客数が増えない。
企業動向関連	なっている	食料品製造業（営業担当）	・7月に入り、気温上昇に伴う飲料水の販売量が急激に増えた。特に、梅雨時期に雨が少なかったため、客の動きが多い。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・梅雨明け後に猛暑となったこともあり、盛夏商材が一気に売上好調となった。それと同時に、中国人を中心とした観光客が増えたこともあり、ターミナル駅を中心ににぎわっている。
	変わらない	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・暑さの影響で夏物商材がよく動いているが、それ以外の商品の動きはあまり芳しくない。
	なっている	食料品製造業（従業員）	・猛暑が続くと、当社の製品はどうしても動きが悪くなってくる。また、景気が良くなった場合も、外食などが増え、家庭内での使用が減る傾向にある。

### 「猛暑・残暑」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	やや良くなる	スーパー（企画担当）	・梅雨が明けて一気に気温も上がり、夏本番ムードとなってきたことで、夏物商材の販売量が増えている。土用のうしの日も好調な実績となった。年間を通して売上が多い月になるため、8月はお盆商戦に向けて販促の強度を上げ、売上の拡大を図る。	
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・気温が上昇するなか、来客数は少しずつ安定してきている。	
	変わらない	スーパー（経理担当）	・残暑の続く時期や、台風の状況に左右される面はあるが、売上の大きな悪化要因は見当たらず、当面は現在の水準で推移する。	
		コンビニ（広告担当）	・政治情勢が微妙な状況で、国民の生活を守ることに十分な議論ができていないが、大きな台風や天候不順、猛暑による渇水などがなければ、現状から大きな変化はない。	
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・蒸し暑い日や気温の高い日が続いており、体力的に厳しい日もある。季節商材であるドリンク類や殺虫剤、UVクリームなどの品ぞろえと演出の工夫で、売上増につなげていく。	
		一般レストラン（経理担当）	・良くなる要素が見当たらない。今後2～3か月も天候不順や猛暑が続くと思われるため、客単価や客足への影響が懸念される。	
	悪くなる	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・気温が高くなっても、気候が安定しない。景気もなかなか上向き様子が見られず、厳しい状況である。	
		百貨店（売場主任）	・猛暑の後も気温が下がらず、秋物衣料が伸び悩むことになる。	
	企業動向関連	なっている	一般レストラン（経営者）	・残暑も厳しくなりそうで、良くなる要素がない。
			食料品製造業（営業担当）	・しばらくは残暑が続く予報であるため、飲料水の売上は良くなる。
変わらない		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・猛暑は、東南アジアからの観光客には影響がなさそうである。炎天下の行楽地を悠々と観光しているため、今後も行楽地を中心ににぎわいが予想される。	
		食料品製造業（従業員）	・秋口に入ると、市場に出回る生鮮品も変わってくるので、多少は売上増が見込まれる。ただし、猛暑がいつまで続くかなど、天候に左右される要素も多いため、不透明な部分もある。	
経営コンサルタント	・暑さや大雨、天災といった、荒っぽい天候であるが、これからも更に暑さが厳しくなるため、夏物商材に対するニーズは引き続き強い。今後も、その点での販売促進などが活発になる。			
その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・夏物商材はこの暑さでよく動いているが、それ以外の商品の動きはあまり芳しくないため、この2～3か月先も大きくは変わらない。			

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 15				16				17																
		月 7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7												
現状判断	近畿	51.5	51.9	51.7	53.1	49.8	49.9	48.3	45.4	40.3	41.1	42.1	40.0	46.0	45.6	44.7	47.3	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3	47.9	50.1	51.7	52.1
	(全国)	50.3	50.2	48.8	50.7	49.3	49.0	47.6	44.1	42.0	40.6	41.7	41.2	43.8	46.0	46.3	48.4	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4	48.1	48.6	50.0	49.7
先行き判断	近畿	53.7	49.0	50.2	51.1	48.9	48.8	47.2	47.0	46.1	46.2	46.7	41.1	47.0	48.4	49.4	48.7	51.0	50.0	49.8	50.6	48.6	49.7	51.5	51.9	49.2
	(全国)	51.7	49.5	50.1	50.7	50.5	50.0	49.1	46.4	45.7	43.7	45.4	40.5	46.9	48.6	49.4	50.3	51.3	50.9	49.4	50.6	48.1	48.8	49.6	50.5	50.3